

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 2 0 0 8 年 3 月 調 査 結 果 - -

2 0 0 8 年 3 月 3 1 日
日 本 商 工 会 議 所

< 結果のポイント >

3月の全産業合計の業況DIは、大幅に悪化した1月以降ほぼ横ばいと、引き続き厳しい状況。(1月 47.9 2月 47.5 3月 46.9)

全産業合計の売上、採算、資金繰り、従業員DIは、いずれもわずかに改善したが、仕入単価DIは、13カ月連続で上昇し 51.6となり、調査開始以来最悪の水準を更新。(仕入単価DI値 = 下落の回答割合 - 上昇の回答割合)

引き続き、原油・原材料価格の高騰による採算の悪化や、燃料費や食料品価格の高騰等に伴う消費の低迷による売上減少などを訴える声が多く聞かれる。

また、今月は新たに、急激な円高の影響に関するコメントが多く寄せられた。先行きの不安や、一部、輸出企業の収益の減少などに対する声が聞かれる。

L O B O 調 査 は、地 域 に お け る 毎 月 の 景 気 動 向 を 調 査 す る も の で あ り、当 該 月 の 景 況 に 係 る 調 査 結 果 を 最 も 早 く 集 計 ・ 公 表 し て お り ま す。

調 査 期 間 : 2 0 0 8 年 3 月 1 7 日 ~ 2 5 日

調 査 対 象 : 全 国 の 4 0 7 商 工 会 議 所 が 2 5 7 8 業 種 組 合 な ど に ヒ ア リ ン グ

(内 訳) 建 設 業 3 7 8 製 造 業 6 1 6 卸 売 業 2 3 5

小 売 業 7 3 6 サ ー ビ ス 業 6 1 3

調 査 項 目 : 今 月 の 業 況 ・ 売 上 ・ 採 算 な ど に つ い て の 状 況 (D I 値 を 集 計) お よ び 業 界 と し て 当 面 す る 問 題 な ど

D I 値 (景 況 判 断 指 数) に つ い て

D I 値 は、業 況 ・ 売 上 ・ 採 算 な ど の 各 項 目 に つ い て の、判 断 の 状 況 を 表 す。ゼ ロ を 基 準 と し て、プ ラ ス の 値 で 景 気 の 上 向 き 傾 向 を 表 す 回 答 の 割 合 が 多 い こ と を 示 し、マ イ ナ ス の 値 で 景 気 の 下 向 き 傾 向 を 表 す 回 答 の 割 合 が 多 い こ と を 示 す。し た が っ て、売 上 高 な ど の 実 数 値 の 上 昇 率 を 示 す も の で は な く、強 気 ・ 弱 気 な ど の 景 況 感 の 相 対 的 な 広 が り を 意 味 す る。

D I = (増 加 ・ 好 転 な ど の 回 答 割 合) - (減 少 ・ 悪 化 な ど の 回 答 割 合)

業 況 ・ 採 算 : (好 転) - (悪 化) 売 上 : (増 加) - (減 少)

【 本 件 担 当 】 産 業 政 策 部 T E L : 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6

E - M a i l : s a n g y o @ j c c i . o r . j p

本 調 査 結 果 は 日 商 ホ ー ム ペ ー ジ (<http://www.jcci.or.jp>) で も ご 覧 に な れ ま す。

【2008年3月調査結果の概要】

業況は引き続き厳しい状況、仕入単価D Iは最悪値を更新

3月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、大幅に悪化した1月（47.9）以降、ほぼ横ばいで、今月も46.9と厳しい水準となった。

産業別の業況D Iは、建設、製造でマイナス幅がわずかに拡大し、サービス、小売は横ばい、卸売は縮小した。なお、卸売は約10ポイント改善しているものの、この主因は1、2月の大幅なマイナスからの反動等と思われる。

景気に関する声、当面する問題としては、小売など一部に好調（気温上昇に伴う春物衣料の売上増加等）、先行き期待という声があるものの、仕入価格の高騰に伴う採算の悪化、消費の低迷による売上の減少などを訴える声が多く聞かれる。

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】

- ・「公共工事・民間工事ともに受注が減少し、厳しい状況」（一般工事業）
- ・「依然として建築資材の値上がりが続いており、採算がさらに悪化」（一般工事業）
- ・「受注件数の減少に伴う同業者間の競争激化により、売上が大幅に悪化」（土木工事業）
- ・「改正建築基準法の影響は和らいできているものの、従前に比べて工事着工は遅れている」（一般工事業）

【製造業】

- ・「受注は堅調だが、コストダウン要請が続き、収益面では厳しい状況」（自動車・附属品製造業）
- ・「業況が回復せず厳しい状況が続き、従業員も過剰状態」（金属加工機械製造業）
- ・「仕入価格の上昇分を納入価格に転嫁できず、深刻な状況」（通信機械器具製造業）
といった窮状を訴える声が多く寄せられている。ただし、中には、
- ・「鉄鋼や工作機械関連の受注は、比較的、順調に推移」（金属加工機械製造業）
など、一部の業種からは改善の声も聞かれる。

【卸売業】

- ・「石油関連製品の高騰に加え、食品原材料や鉄鋼製品の値上げが予定されており、採算への悪影響を懸念」（各種商品卸売業）
- ・「売上の減少が続くなど、依然として厳しい状況」（衣服・日用品卸売業）
- ・「原油価格の高騰に伴い、運送費や梱包資材の経費が増大し、採算が大幅に悪化」（他の卸売業）

【小売業】

- ・「来客数は前年と同程度も、一人当たりの購入単価は減少」（商店街）
- ・「食料品価格高騰の影響により、個人消費が減少し、売上が悪化」（商店街）
などの厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。ただし、中には、
- ・「今月中旬から気温が上昇し、春物衣料の動きが活発化」（百貨店）
という声も複数見られる。

【サービス業】

- ・「原油価格の高騰に伴う仕入価格の上昇に加え、アルコール類の値上げも実施され、採算がさらに悪化」（食堂・レストラン）
- ・「軽油価格の上昇分を運賃に転嫁できず、厳しい状況」（運送業）

・「競合ホテルの進出により競争が激化し、売上が悪化」(旅館)

全産業合計の売上DIは、マイナス幅が5.3ポイント縮小して 30.1となり、2カ月連続で改善した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設で拡大したものの、他の4業種では縮小した。

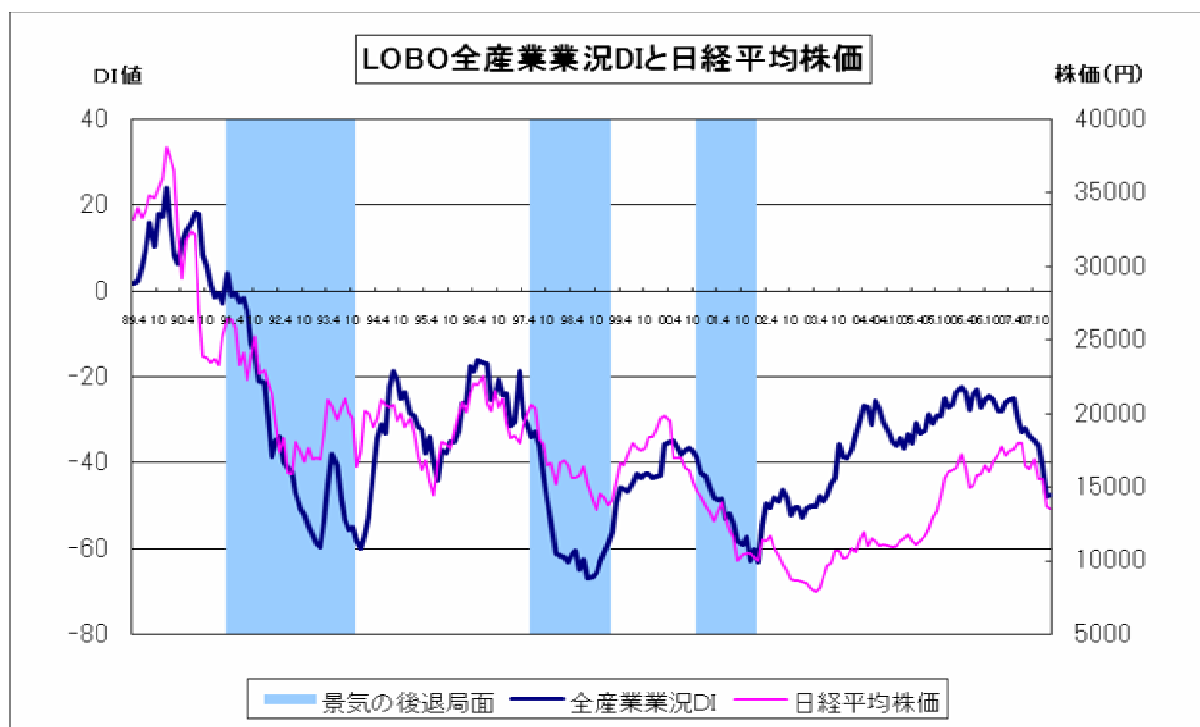
全産業合計の採算DIは、マイナス幅が2.1ポイント縮小して 42.8となり、2カ月連続でわずかに改善した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、製造で拡大したものの、他の3業種では縮小した。

全産業合計の資金繰りDIは、マイナス幅が2.6ポイント縮小して 28.4となり、7カ月ぶりにわずかに改善した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は製造はほぼ横ばいとなったものの、他の4業種では縮小した。

全産業合計の仕入単価DIは、13カ月連続で悪化して 51.6となり、調査開始以来最悪の水準を更新している。産業別にみても、仕入単価の上昇感は全ての業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは 3.8と、過剰感は前月(4.1)からほぼ横ばい。産業別にみると、DI値は小売で不足感が強まったものの、製造でほぼ横ばい、建設、卸売、サービスで過剰感が強まった。

向こう3カ月(4月~6月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が 43.1と、昨年同時期の先行き見通し(20.8)に比べて大幅に悪化している。産業別にみても、全ての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、18ポイント以上の悪化となっている。



【業況についての判断】

3月の全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、大幅に悪化した1月（ 47.9 ）以降、2カ月連続でほぼ横ばいとなり、今月も 46.9 と厳しい水準となった。

産業別にみると、卸売はマイナス幅が約10ポイントと大幅に縮小したが、水準としては 47.3 と低く、1、2月の大幅悪化からの反動等が要因と考えられる。その他、小売、サービスはほぼ横ばい、建設、製造はマイナス幅がわずかに拡大した。

向こう3カ月（4月～6月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 43.1 と、昨年同時期の先行き見通し（ 20.8 ）に比べて20ポイント以上も悪化している。

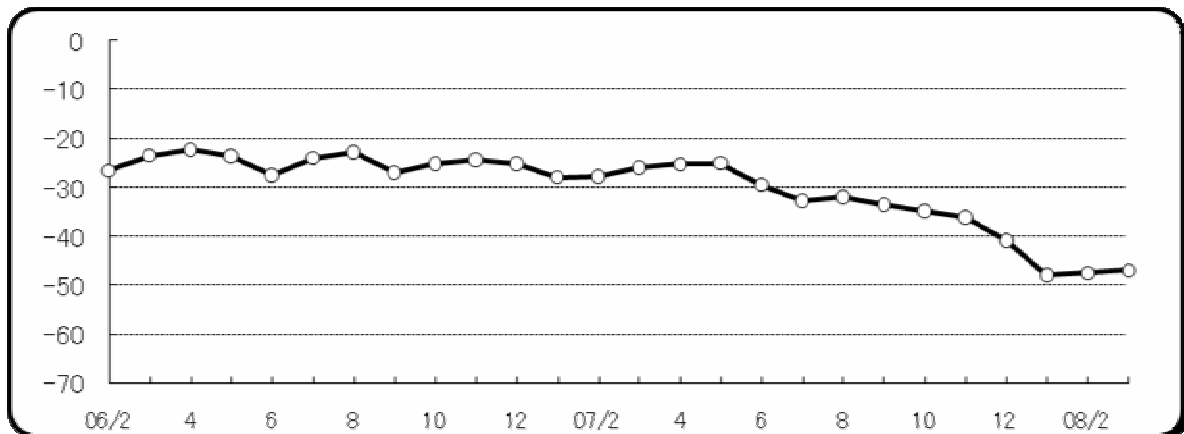
産業別にみても、全ての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、約18ポイント以上の悪化となっている。

業況D I（前年同月比）の推移

	07年 10月	11月	12月	08年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	34.9	36.1	40.8	47.9	47.5	46.9	43.1 (20.8)
建設	47.2	46.8	57.3	58.1	57.7	59.4	61.8 (41.6)
製造	27.0	29.2	34.9	40.4	40.3	41.3	41.1 (14.5)
卸売	44.3	45.6	44.9	55.6	57.7	47.3	36.7 (28.2)
小売	33.8	36.0	39.0	49.2	49.1	48.4	41.6 (16.7)
サービス	33.0	32.6	37.1	44.5	42.7	43.3	38.0 (16.6)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年3月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が5.3ポイント縮小して30.1となり、2カ月連続で改善した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設で拡大したものの、他の4業種では縮小した。

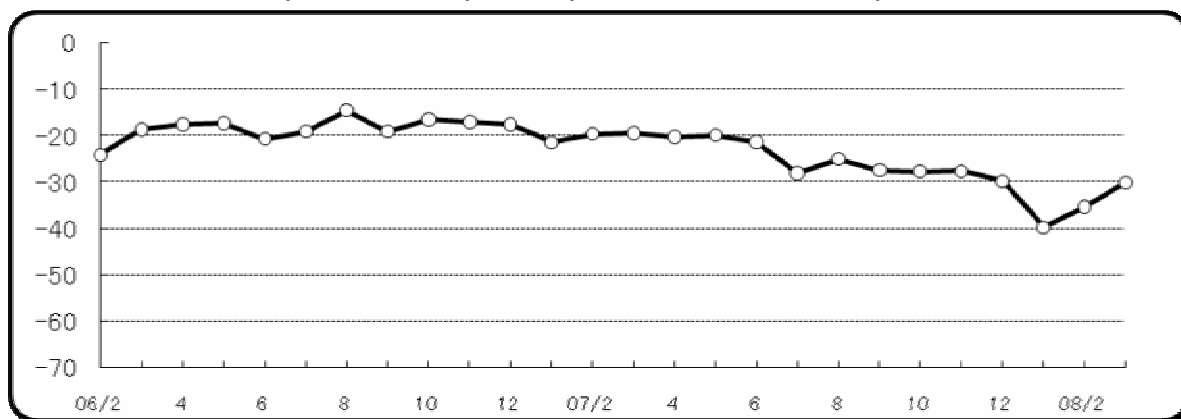
向こう3カ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が31.0と、昨年同時期の先行き見通し(13.6)に比べて約17ポイントも悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大し、卸売を除くと15ポイント以上悪化している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	07年 10月	11月	12月	08年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	27.8	27.7	29.9	39.8	35.4	30.1	31.0 (13.6)
建設	39.8	45.2	51.6	55.7	51.9	53.0	59.7 (40.3)
製造	19.0	18.0	19.1	24.0	20.3	19.5	22.2 (6.8)
卸売	33.5	33.8	39.1	52.0	47.0	29.3	23.5 (19.5)
小売	29.7	26.4	29.8	43.9	35.2	26.8	30.2 (6.4)
サービス	24.7	25.8	23.7	36.6	36.9	31.5	26.5 (10.6)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が2.1ポイント縮小して42.8となり、2カ月連続でわずかに改善した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、製造で拡大したものの、他の3業種では縮小した。

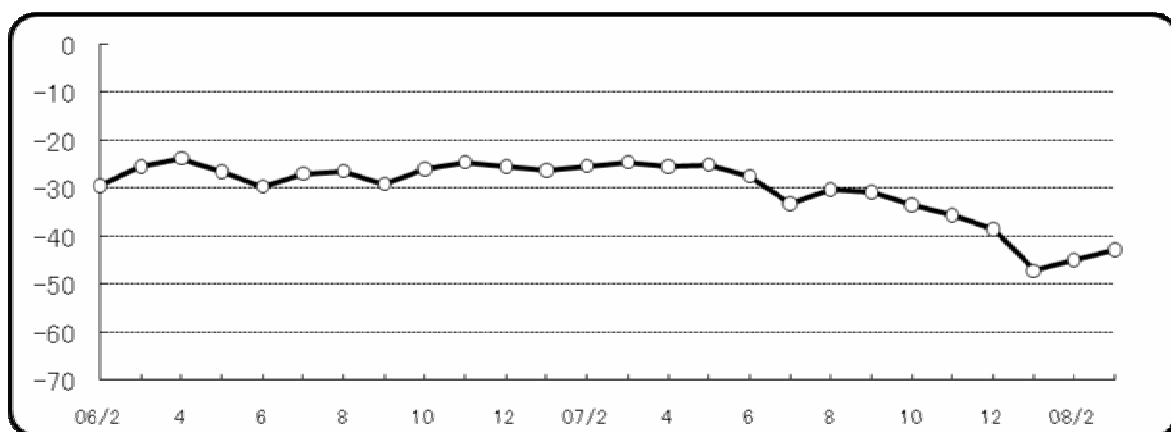
向こう3カ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が37.3と、昨年同時期の先行き見通し(18.8)に比べて20ポイント近く悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	07年 10月	11月	12月	08年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	33.5	35.6	38.5	47.1	44.9	42.8	37.3 (18.8)
建設	46.3	50.0	56.7	63.0	57.7	62.8	60.1 (42.4)
製造	32.8	33.7	37.0	43.8	40.3	42.1	39.0 (18.0)
卸売	33.5	36.3	40.4	43.3	53.3	44.0	24.7 (19.5)
小売	30.6	31.4	34.3	44.4	40.9	34.2	31.9 (10.3)
サービス	29.4	33.1	32.6	45.3	43.2	41.1	33.1 (15.3)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	07年 10月	11月	12月	08年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	21.8	22.2	24.9	28.5	31.0	28.4	29.1 (17.5)
建設	37.6	34.5	38.3	45.1	48.7	46.3	45.6 (34.4)
製造	18.0	19.4	23.3	25.1	25.0	25.3	29.2 (13.3)
卸売	19.9	23.2	24.3	24.8	27.3	20.9	22.5 (21.5)
小売	19.3	17.1	20.7	27.6	30.2	25.5	24.1 (14.0)
サービス	18.2	22.0	23.0	23.5	28.9	26.9	27.1 (13.9)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は7カ月ぶりにわずかに改善した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は製造はほぼ横ばいとなったものの、他の4業種では縮小した。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	07年 10月	11月	12月	08年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	35.9	39.8	44.4	48.4	49.8	51.6	48.6 (17.7)
建設	43.7	47.4	53.1	59.0	56.3	59.2	53.4 (28.2)
製造	50.2	54.4	57.5	60.7	59.0	60.5	54.6 (30.1)
卸売	26.6	30.0	34.0	31.1	42.0	47.3	47.3 (20.1)
小売	26.2	29.9	34.1	38.7	41.7	42.7	42.5 (7.4)
サービス	31.4	35.2	41.4	46.9	48.6	49.7	47.2 (10.3)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は、13カ月連続で仕入単価の上昇を示し、調査開始以来最悪の水準を更新している。産業別にみても、仕入単価の上昇感は全ての業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	07年 10月	11月	12月	08年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	0.3	0.8	2.2	4.0	4.1	3.8	4.1 (1.9)
建設	15.0	15.5	18.0	15.9	20.3	22.2	22.7 (19.4)
製造	1.7	0.0	1.0	2.2	2.2	2.0	4.5 (3.8)
卸売	1.3	1.9	5.1	6.6	6.0	7.4	4.7 (7.8)
小売	5.3	4.5	1.5	0.0	1.7	3.9	2.0 (5.6)
サービス	0.5	1.8	1.1	2.2	2.1	2.5	1.1 (4.5)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは 3.8と、過剰感は前月からほぼ横ばい。産業別にみると、D I値は小売で不足感が強まったものの、製造でほぼ横ばい、建設、卸売、サービスで過剰感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみると、卸売で過剰感が弱まる一方、小売、サービスで不足感が弱まり、建設、製造で過剰感が強まる見通し。

【2008年3月の景気キーワード】

更なる悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設からは、「鉄、金属、アルミなどの資源価格の高騰から、建設・資材製品が再値上げされ、新たなコスト負担を懸念」(静岡・一般工事業)、「4月以降も仕入価格の高騰が予想され、採算が悪化する見込み」(横須賀・土木工事業)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも、「小麦の値上げに加え、今後もパン、カップ麺類等の再値上げが予定されており、売上の悪化を懸念」(新井・百貨店)、「食料品の値上げが続いており、来客数・売上の更なる減少が見込まれ厳しい状況」(桐生・その他の小売業)といったコメントが寄せられている。

仕入コストの上昇

各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。製造からは、「原材料、燃料などの諸経費が増加傾向にあり、採算の悪化を懸念」(宇都宮・パン・菓子製造業)、「急な材料価格の値上がりに対し、売上は減少が続き、厳しい状況」(加茂・金属加工機械製造業)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも、「売上は多少増加するも、仕入価格の上昇により採算は悪化」(廿日市・商店街)、「期末に向け売上は増加傾向だが、納品価格等の上昇により採算面は悪化」(名古屋・ソフトウェア)といったコメントが寄せられている。

急激な円高に対する不安

今月は最近の急激な円高に伴う先行きに対する不安や、収益面での悪影響を訴える声も寄せられている。サービス業からは、「輸出関連企業を得意先とするため、先行きに大きな不安を感じる」(上田・ソフトウェア業)、「急激な円高の影響による、外国人観光客の減少を懸念」(京都・旅館)とのコメントが寄せられている。

また、輸出関連の製造業からも、「急速な円高が収益減少の要因となっている」(金沢・金属製品製造業)、「円高による企業経営への悪影響を懸念」(相模原・金属加工機械業)といった声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
08年	1月	更なる悪化への懸念	仕入コストの上昇	消費意欲の低下
	2月	更なる悪化への懸念	仕入コストの上昇	中国製冷凍食品の影響
	3月	更なる悪化への懸念	仕入コストの上昇	急激な円高に対する不安

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D I、売上D I、採算D Iともに2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「公共工事の建設投資額はピーク時の7割程度と、大幅な落ち込み」、「受注の減少と原材料価格の高騰に伴う採算悪化の影響で、倒産や廃業が増加」(ともに一般工事業)、「仕事量の減少により、従業員の新たな雇い入れが難しい状況」(土木工事業)、「4月に原材料の値上げが予定されるなど、今後も厳しい状況が続く見込み」(管工事業)といった声が寄せられている。
製 造	業況D I、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大、売上D Iは2カ月連続で縮小した。「需要は増加するも原材料の値上げ分を価格転嫁できず、採算は悪化」(鉄素形材製造業)、「製紙原料の値上げと入手困難は、相変わらず深刻な状況」(紙製造業)、「若い人材の不足や従業員の高齢化が、今後の懸念材料」(暖房装置・配管製造業)、「急激な円高が当面の利益を圧迫し、今後の受注(輸出)に悪影響」(繊維機械製造業)といった声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは3カ月ぶり、売上D Iは2カ月連続、採算D Iは5カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「重油価格の上昇に加え、漁獲量の減少により魚の価格が高騰し、厳しい状況」、「中国製冷凍食品問題の影響で、中国産の商品を敬遠する動きが顕著になった」(ともに農畜産水産物卸売業)、「小麦粉関連商品の大幅値上げに加え、4月からは醤油の値上げが予定されるなど、更なる採算の悪化を懸念」(食料・飲料卸売業)、「メーカーからの納品価格の値上げが続いており、収益が減少」(家具・建具等卸売業)といった声が寄せられている。
小 売	業況D I、売上D I、採算D Iともに2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「原材料価格の高騰や各種商品の値上げに伴う消費者の購買意欲の低下により、宝飾・呉服・美術関連を中心に売上が低調」(百貨店)、「売上は対前年比を大幅に下回るなど、厳しい状況」、「催事やセールを開催しても売上は好転せず、今後も消費意欲の低下が続くことを懸念」(ともに商店街)といった声が寄せられている。一方、気温上昇の影響で「春物衣料を中心に動きが良く、売上は対前年比で増加」という声も複数見られる。
サービス	業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大する一方、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「各種商品価格の上昇に伴う消費者の先行き不安の影響から、来客数が減少し売上が大幅に悪化」(食堂・レストラン)、「原油価格の高騰に伴い、関連食材が10%以上値上がりし、採算に悪影響」(すし店)、「食肉、みそ、醤油、ビール、野菜が値上げされるなど、厳しい状況」(一般飲食店)、「低料金店の進出による競争激化の影響で売上が悪化し、閉店数が増加」(理容業)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北陸信越、東海、中国、九州でマイナス幅が縮小したものの、他の5ブロックでは拡大した。また、全ブロック合計はマイナス幅がほぼ横ばいとなった。

なお、前月悪化が目立った東海は、約6ポイント改善し、ブロック別で2番目に良い水準となっている。

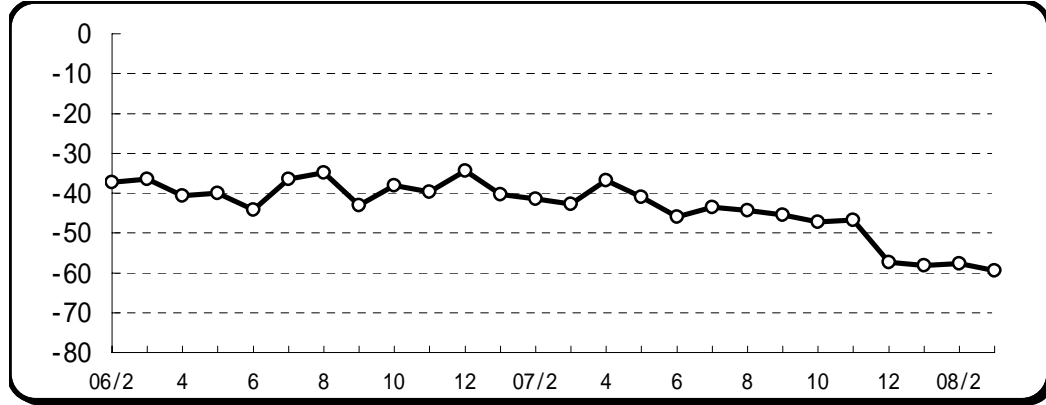
ブロック別の向こう3カ月(4月～6月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。また、全ブロック合計も悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

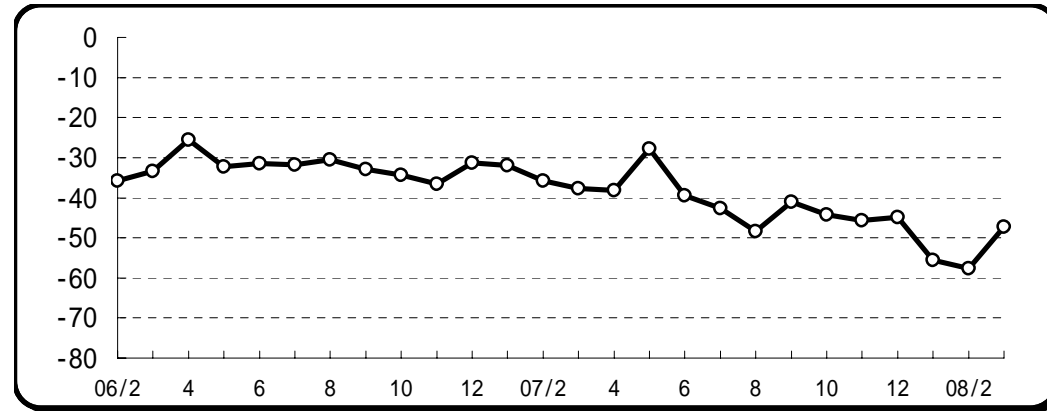
	07年 10月	11月	12月	08年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全 国	34.9	36.1	40.8	47.9	47.5	46.9	43.1 (20.8)
北 海 道	39.8	46.5	41.7	50.4	49.5	52.5	48.3 (30.8)
東 北	39.0	36.8	44.7	49.3	48.6	53.0	42.4 (20.1)
北陸信越	31.6	35.5	40.6	48.8	50.0	41.9	34.6 (20.4)
関 東	31.7	29.9	39.1	44.8	43.2	44.1	39.6 (16.7)
東 海	33.1	32.5	37.0	40.8	48.7	42.6	45.1 (19.4)
近 畿	37.1	32.5	43.4	54.2	53.4	54.1	48.1 (25.4)
中 国	38.8	41.2	42.6	54.5	53.0	50.4	46.3 (21.4)
四 国	35.3	46.6	37.3	44.4	40.6	44.4	42.9 (26.2)
九 州	35.1	40.1	42.7	46.2	45.6	43.3	45.7 (15.7)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

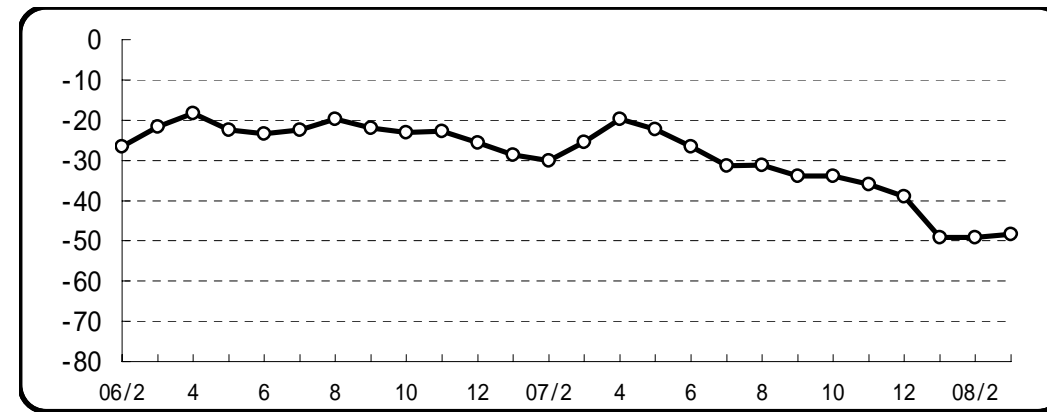
建設業



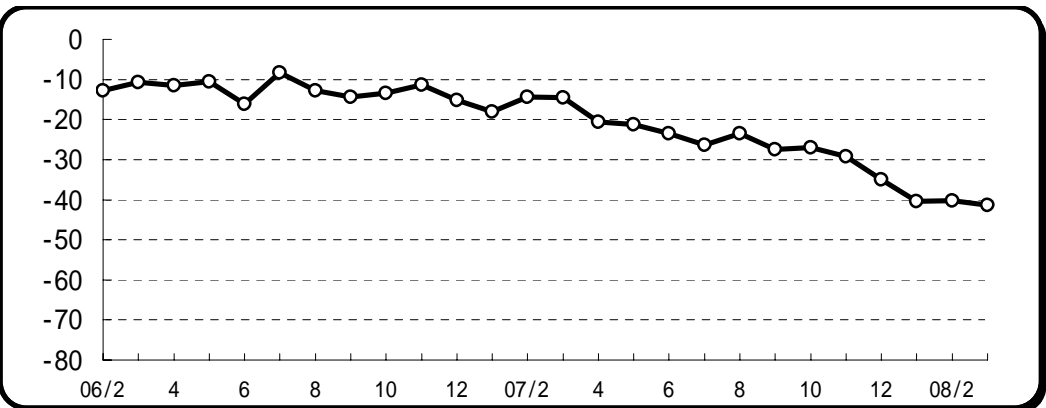
卸売業



小売業



製造業



サービス業

